

IFRS 導入のコスト

ー日本は米国以上？

リソース・グローバル・プロフェッショナル
グローバル・マネージング・ディレクター
コリーン・カニングハム

去る11月、米国のIFRS導入に係るロードマップ案が公表されました。SECは、ロードマップ案の中で、米国企業がIFRS導入に要するコストが売上高の0.125%から0.13%になるであろうと予測しています。

この比率は、イングランド・ウエールズ勅許会計士協会が公表したEUでの経験値0.05%を上回るものですが、これは、3年分の監査済財務諸表をアニュアルレポートに含めることや、内部統制報告制度（いわゆるSOXレポーティング）があること等の米国特有の事情を考慮してのことのようです。アニュアルレポート（10-K）作成の追加負担を約50,000時間、外部専門家を利用する場合の時間当たり報酬を400ドルと見積もっている点等、コスト分析の内容には興味深いものがありますが、それでは結局、IFRS導入には一体いくらかかるのでしょうか？

SECは、IFRSの早期適用が認められる適格企業を想定した場合、最初の3年間に要する1社当たりの必要コストを約32百万ドルと見積もっています。皆様の予想と比較して如何でしょうか？ご記憶されている方も多いかと思いますが、SECは、いわゆるSOX法を採択する際にもコスト予測を行い、適用初年度の対応費用を1社当たり約9万ドルと見積もっていました。実際には1社平均約3百万ドルを要したと言われており、この結果から推測するIFRSのインパクトは決して楽観視できないものと思われる。

では、日本がIFRS導入を決めた場合にはどうなるのでしょうか。J-SOXを導入した際は、多大な制度対応コストを経験した米国から学ぶことによって、日本独自の基準を作成されたことと思います。IFRSの場合、ロードマップを日本の事情に合わせたものにするには可能ですが、基準自体は世界共通のものでありますからこれを日本独自の形にすることはできず、米国同様の適応努力が必要になるものと考えられます。また、内部統制報告制度が存在し、IFRS導入が当該制度に大きく影響することも米国同様だと思えます。

一方、IFRSは原文が英語ですから、英語を母国語とする米国に比べて日本の導入の方が大変なのかもしれません。IFRS導入における最も大きな課題は教育だと言われたりしますが、翻訳を待っていたのではタイムリーな教育、対応はできませんし、また、翻訳では適切な解釈が難しいケースも少なからず生じます。とはいえ、日英双方の言語に通じた会計プロフェッショナルの数にも限りがありますから、何千社とある日本の上場会社及びそのグループ会社をカバーすることは難しいでしょう。

日本企業にとって、IFRSに精通した人的リソースの社内育成及び外部専門家の確保は、米国以上に喫緊の経営課題になるのではないのでしょうか。



コリーン・カニングハム (Colleen Cunningham)

リソース・グローバル・プロフェッショナル
会計・財務サービスライン担当 グローバル・マネージング・ディレクター

米国大手監査法人での勤務を経て、HAVAS アドバイジング社の北米 CFO、AT&T 社のチーフアカウンタント、ファイナンシャル・エグゼクティブ・インターナショナル (FEI) の CEO など要職を歴任。また FASB および IASB のアドバイザーとして活躍。2007 年より現職。執筆・講演多数。CPA (米国公認会計士)、ニューヨーク大学 MBA。

© 2009 Resources Global Professionals All rights reserved.